

GOTO TSUSHIN

発行 / 滋賀医科大学同窓会湖医会
〒520-2192 大津市瀬田月輪町 滋賀医科大学内
TEL 077-548-2074, FAX 077-548-2094
E-mail:koikai@koikai.org
http://www.koikai.org/

湖都通信 48号

Since 1987, Editor Takehiro Inui,
Co-editor Takashi Kadowaki,
Tetsunobu Yamane
印刷 / 昌栄印刷 2005.6.30

2005年度 奨学生決定

「藤原よしみ奨学金」スタート

—— 全学部学生対象、自主的な活動を支援

湖医会では2003年に設けられた「湖医会奨学金」に加え、今春「藤原よしみ奨学金」がスタートしました。この奨学金は、娘藤原よしみさん(をヘルペス脳炎で亡くした両親が、志なけばで逝ってしまった娘の夢を繋いでほしい」と奨学金基金に寄附され、その意志に添って設置されたものです。「国家試験に向け学業に専念したい学生の援助」対象は医学科5・6学年、看護学科3・4学年(という主旨を持つ湖医会奨学金)との差異をつけるために、当初は海外自主研修者への援助を目的とするような形での実施を検討してきました。しかし海外自主研修への援助としては、現在滋賀医学国際協力会から希望者全員に10万円が授与・返還不要されています。また藤原さんのご両親からの申し出は、奨学金を特定の目的に限定したものではありませんでした。そこで、これらの条件をふまえ、全学年の学生を対象に、自主的な学生の活動を支援することを趣旨としました。

今回このふたつの奨学金に対し各3名ずつの応募があり、5月27日湖医会奨学金運営委員(卒業生4名からなる)による面接審査が行われました。その後運営委員会から報告書が提出され、手続きに

古家大祐氏(医4期生)、

金沢医科大学 教授に!

2005年6月1日付けで、古家氏が金沢医科大学内分秘代謝科御学講座の教授に就任。

(抱負は次号掲載)

添って、会長の決定を受け全員が奨学生として認められました。運営委員会から今後の課題としていくつかの点が挙げられましたが、学生の声も生かしながら湖医会独自の奨学金として発展して行くことが望まれるところではないでしょうか。

先輩の気持ちをかたちに

引き続き湖医会奨学金基金への寄附も受け付けています。自分の科に入学希望の学生を援助したいとか、将来自分の施設で働いてくれる可能性のある後輩のために使ってほしい、などの希望があればお知らせください。個人名のついた奨学金を設けることも可能です。詳しいことは、湖医会事務局にお尋ねください。みなさんのご協力をお願いします。

振込は左記まで

郵便局振替口座番号 00930-5-188657
加入者名 「滋賀医科大学湖医会奨学金」

171名が仲間入り

2005年3月25日、医学科105名、看護学科66名が卒業。卒業式終了後に行われた卒業生祝賀会(「湖医会」主催)で正会員の仲間入りをしました。現在会員数は正会員2965名、特別会員387名で合せて3352名。

昔と同じく、胴上げで卒業を祝う



主な記事

個人情報保護法、「湖医会」の基本方針..... 2
救急医療現場、JR福知山線事故..... 3
退官教授「在任中の想い出」..... 4 ~ 5
診療教授の依頼を受けて..... 5

横田敏勝先生を偲ぶ..... 6
開業医シリーズ..... 7
看護学科3期生同期会..... 8
看護学科養護教諭部会..... 9
LITTLE WINDOW..... 10

個人情報保護法に関する 「湖医会」の基本方針

この基本方針につきまして会員みなさまのご意見をお聞かせください。締切は7月末までです。お寄せいただいたご意見を幹事会で検討し、その内容は「湖医会」ホームページ及び機関誌「湖都通信」でお知らせします。

2005年4月から施行された「個人情報保護法」の制定により、「湖医会」は下記のとおり会員の「個人情報保護に関する基本方針」を定めました。会員みなさまは、この基本方針を熟知され、ご意見あるいは開示を望まれない「公開不可」の事項がある場合には、「湖医会」事務局に申し出をしてください。

なお、特に申し出がない場合については「公開可」として対応させていただきます。

みなさまのご理解とご協力をお願いいたします。

2005年4月 「湖医会」会長 渡辺一良

「湖医会」会員の個人情報保護に関する基本方針

1、会員データの収集とデータベースの管理

会員の個人情報は、大学から提供される卒業生データ、卒業時点の「連絡用紙」ならびに卒業後に定期的実施する会員情報調査をもとに「会員データベース」に登録し、「湖医会」が責任をもって管理し、事務局で厳重に保管しています。またデータ管理用パソコンはネットに繋がず独立させて作業しています。

2、個人情報の使用目的

- ・定期刊行物の送付
- ・同窓会費徴収に関する事務
- ・同窓会員に対するアンケート調査の実施
- ・湖医会からの事務連絡および各種文書の送付。その他支部・卒業生・学生が行う行事開催に関する事務連絡および各種文書の送付。
- ・同窓会員名簿の作成
- ・在学生の就職支援など
- ・その他、同窓会員に関する業務

『湖医会』が取得した個人情報の利用は、前掲の業務の範囲内に限るものとし、その目的以外の用途には利用いたしません。

3、情報開示の可否

第三者への「開示可否」は、会員の意志に

沿って管理します。

(1)「公開不可」の取り扱い、住所変更などの手続きに準じ、会員からその旨を記載した『湖医会』宛の書面(郵送・FAX・電子メールのいずれか)を事務局が受けて対処します。

(2)届け出の無い場合は、「公開可」として取扱います。

4、情報提供依頼と回答

(1)会員からの情報提供依頼については、即答することはありません。

・まず依頼者が本人かどうかの確認をします。(勤務先・自宅へ連絡し依頼したかどうかの確認をします)

・いかなる情報も被照会者本人の了解を得て依頼者に伝えるか、もしくは被照会者本人から依頼者に連絡していただくことになっています。

(2)会員外からの照会については、申請書の提出を求め担当幹事(複数名)の討議を経て対応することになっています。

5、支部など会員が関わる組織等への情報提供

所定の手続きにより、『湖医会』支部・各学年同期会・その他会員の交流活動に必要と認

められる場合は「公開可」の会員のみ情報を提供します。

6、就職活動支援の情報提供

在学生で就職活動をしている者に対しては、所定の手続きの上「会員データベース」を閲覧させ、就職活動を支援します。この「会員データベース」では、「公開可」とする会員の「勤務先」・「勤務先電話番号」・「自宅住所」・「自宅電話番号」・「e-mailアドレス」の情報を開示し、学生に対して、必ず会員とコンタクトをとり迷惑のわからない範囲で、就職活動の相談をするよう指導します。

7、本人からのデータ変更の申し出について

(1)電話での受付はしません。

(2)FAX、メール、郵送で受けた場合でも、明らかに本人と確認できないときは、事務局のデータに基づき本人に連絡し、確認したうえで受け付けています。

上記の他、例外事項、疑義事項が生じた場合には、『湖医会』関係者ならびに専門識者が協議のうえ対応することとし、必要事項は会員に追加情報として通知します。

JR福知山線列車事故における 瓦礫の下の医療



長谷貴將

恩師財団済生会滋賀県病院 救命救急センター長
地域災害医療センター長 診療部長・救急部長
(前、滋賀医大救急集中治療医学講座 助教授)

2005年4月25日発生したJR福知山線列車脱線事故では、107人の方が亡くなり、多くの方がまだ療養中です。この事故に際し、兵庫県、大阪府、滋賀県から45人の医師、40人の看護師、12の医療チームが活動しました。滋賀県からは済生会滋賀県病院が自主的に6名(医師3名、看護師1名、事務1名、緊急車両運転手1名)からなる緊急医療班を派遣し発生現場における医療支援を行ないました。湖医会の皆様今回の事故に関する済生会滋賀県病院チームの活動をご報告させていただきます。



第一車両付近の現場写真

事故発生を知ったのは午前10時41分頃、厚生労働省からのメールによってでした。インターネット、NHK報道の航空映像で発災地の位置および事故の状況を確認した後、ただちに緊急管理会議により緊急医療班の派遣命令を受けました。医師3名のうち1名は4年目の外科医、もう1名は2年目の研修医、看護師は救命救急センターの男性看護師でした。資器材搬入、任務を確認した後、病院所有の緊急自動車の赤色灯を点滅させ、サイレンを鳴らして名神高速道路を現地に向かいました。



一両目が落ち込んだ現場

午後1時10分、事故発生から3時間40分後に現場に到着し、現地消防指揮所に到着を報告、現地担当医師にも接触し、現場

指揮の統制下に入りました。現場では目に見える傷病者の方はすでにトリアージ(傷病者の状態をみて搬送の優先度を定めること)の上搬送されており、一見静かな印象を受けました。しかしながら、地下駐車場に落ち込み、著しく変形した第一車両そしてマンションに巻き付くような形の第二車両には、車内に偶然生まれた空間に挟まれながら奇跡的に生存し、救助を待っている方々がいらっしゃいました。

済生会滋賀県チームは現地消防救助隊の要請を受け、私を先頭に地下駐車場および第一車両内に入り、圧死された御遺体、変形した構造物に挟まれて身動きできなくなった生存者の方々に医療管理を開始しました。四肢を4時間以上挟まれ、血流が遮断された場合、筋肉が壊死を起こします。急速に圧迫を解除すると壊死物質、カリウム、サイトカイン等が体内に分布し、早期には急激な心停止、また後期には腎不全をはじめとする多臓器不全をおこします。これを圧挫(クラッシュ)症候群といいます。私たちはこのクラッシュ症候群から生存者を守るために、大量輸液および全身のアルカリ化など必要な処置を行ないました。中には若い妊婦の方もいらっしゃいました。お子さんのことを大変心配しておられましたので、携行した超音波画像診断装置で胎児の無事を確認していただきますと、ようやく安堵されました。



事故現場を北から見る

救急災害医学では、今回のような進入路、救出路の確保が困難な狭い空間における現場医療のことをconfined space medicine (CSM:「瓦礫の下の医療」と

呼んでいます。内部の環境は、きわめて狭く、室温40度以上、蒸し暑く、バランスをとって中腰の姿勢でいるだけで大量の汗が吹き出しました。ガソリンの臭いが充満し、救出作業の騒音の中、医療活動は決して容易なことではありませんでした。若くて屈強な救助隊員でさえ20分しか活動できない過酷な環境でした。しかしながら我々は生存者に声をかけ、手を握り、その方々に「医師-患者」の関係として接しました。真っ暗な中、遺体に挟まれ身動きもできない状態に長時間いることを余儀なくされ、四肢の傷みに耐えきれず苦痛を訴える生存者、救助が遅くとして進まず本当に生きて救助されるのかという不安を少しでも慰撫するよう努力しました。



大阪市内へ患者を搬送

私たちは兵庫県、大阪の災害派遣チームと連携し、6名の生存者に対し「瓦礫の下の医療」を行ない、現場における心停止を回避することができました。この活動は他施設が協調して行なった本邦初のCSMといわれています。二つの府県を超え、50km離れた病院から医療支援チームを派遣したことで、テレビ報道、新聞(英字新聞も含む)など多くのメディアに取り上げていただきました。また、他府県からも多く的一般の方、医師から激励のお便りもいただいています。

これからも救急災害医療・教育の必要性が増していくものと考えられます。特に若い医療従事者の方に教育できるよう精進していきたく考えています。

在任中の思い出

26年間の思い出

前地域生活看護学講座 教授

大矢紀昭



私が滋賀医大に小児科の助教授として赴任しましたのは1979年5月、滋賀医大の附属病院が開院して6ヶ月ほど経った時でした。口の悪い人は「日本には文化がない」と言っていました。瀬田駅前には銀行とパチンコ屋しかなく、学園通りは中央のみ舗装されていたが、雨の日は道の両端はどろどろでした。大学病院もA・B棟のみで小児科の5A棟は第3内科との混合棟でした。小児科の教室員も島田教授以下5、6人でわかきあいあいとした家族ぐるみでの付き合いもありました。それでも1980年に第1期生の入局を迎えると教室も一気に活気づき、

大学の医局らしくなってきました。医局が若い医師あつてのものだということがよくわかりました。いつの間にか小児科の外來・入院ともに患者さんが増え、関連病院という名の病院へ出張していく医師、開業する医師、大学院生と多岐にわたってきたため、同じ釜の飯を食った仲間をまとめるため同門会(心会)が結成されました。私は1991年から5年間母校の人事で京都府の宇治保健所に勤務しました。その間も臨床に未練があり、代謝・内分泌の外來に週1回よせてもらいました。1994年に滋賀医大に併設されました看護学科が再び滋賀医大にもどるチャンスを得ました。看護学科での9年間は新しい学問への挑戦でした。研究も生化学から疫学調査、アンケート調査、質的研究とコペルニクス的な変化でした。自分を見失った状態で多くの人に迷惑をかけた。看護学科に多くの問題を残したまま去ることになりました。どうか学部、大学院の課題を残った人々の手で解決して下さい。毎年次々と生れる4年制大学の生存競争に生き延びて下さい。卒業生が喜んでもどってくる看護学科にして下さい。

看護学科開設10周年と定年退職



前臨床看護学講座教授

徳川早知子

1961年に看護職に就いてから、ただ歩き続けて早くも44年が経過する。3人の子供たちを育てながらの勤務は決して平坦ではなかったが、滋賀医科大学(以下本学)看護学科開設前から、10周年を終えた2005年3月末まで、本学の発展の日々を目のあたりにしつつ、この度定年退職を迎えられたことは、この上ない安堵感を覚えると共に、本学に連なる多くの方々への感謝の気持ちでいっぱい。私は1984年4月に本学附属病院に就職。翌年2月から1993年まで看護学科副部長として教育や業務を担当させて頂

いた。この間のできことの一つに、1991年の信楽における列車衝突事故時の救護活動がある。本学看護部からも2名の看護師が現場に派遣されたが、看護部は専ら後方支援病院として、かなり長期にわたってその機能を果たした。後にこの救護活動の体験が風化してしまわないように、県下の病院看護師に呼びかけて一冊の小冊子にまとめ、各病院看護部や図書館に配布した。甲賀市立信楽中央病院石野前看護部長や本学井下看護部長、田畑良宏臨床看護学講座教授、宮松同講座助教授及び院生の方々と数ヶ月にわたって研究会をもったことも懐かしく思い出される。1994年看護学科開設に向けての教員人事が、学年進行に伴って行われていた。私は県立短大に赴任していたが、非常勤講師として1995年度から講義を担当した。1996年には再び本学に戻り、定年まで成人看護学を担当、1998年の大学院開設に伴い、クリティカルケア学やノーマライゼーション看護を担当させて頂いた。この間、田畑教授から多大な教えを受けた。看護学科開設10周年を終え、学部では今春8期生が巣立ち、卒業生は既に500名を超えている。大学院修了者の中からも京大助教授や教職に就く者、救命救急の場で働くナースも輩出し始めている。本学を母校とする皆様が感性と知恵を働かせて、努力しつつ専門職ナースとして、生きていく力を身につけて行かれますように。

「何か」を待ちながら

前微生物学講座 教授

瀬戸 昭



さる3月31日、滋賀医大を定年退職しました。非常勤講師として10年、ついで教授として17年、あわせて27年間、滋賀医大で微生物学・免疫学の講義を担当させていただいたことになりました。私にとって大学教官の道は研究者を志して選んだ道でしたから、今振り返ってみると、講義では何かと不行き届きがあったのではないかと内心忸怩たるものがあります。

こんなに長いあいだ滋賀医大とかわりを持つたわけですから、退職ともなると色いろ感慨深く思い出されることがあります。その中には、学生の皆さんとの楽しい思い出もあります。やはり研究の場での思い出の方がずっと多いように思います。いま、自分の研究論文集の頁をめくりながら思い返してみると、その多くは、思いがけない発見の思い出です。その発見が重要なものであったか些細なものであったかは関係ありません。思いがけない発見をしたときの感激には忘れがたいものがあるということなのでしょう。私の研究生生活はそんな感激を味わえる

瞬間を、いつも、無意識のうちに、心待ちしていたように思えます。もちろん、意識して心待ちしていたものが、思いがけず目の前に現れたときの感激にも忘れがたいものがありました。このようなことの繰り返しの中に、辛抱強く待たばいつかは好機が訪れるものだという漠然とした確信を持つようになりまして。

この原稿を書いているわずかひと月前にも、忘れがたい出来事がありました。昨年11月、ジャイカのシニア海外ボランティアとしてモロッコに赴任することになった時のことです。退職を目前に控え、私が26年間手塩にかけて系統維持してきた純系ウサギをどうするか問題になったのです。ずいぶん奔走したのですが結局引き取り手が見つからず、万策尽きてバルビタールを注文したのちモロッコに出発したのでした。そして、さる3月20日、暗然とした気分で帰国した私は、留守中にたまたまいた手紙の束の中に、米国立衛生研究所からの一通のクリスマスカードを見つけ、その裏に書かれた問い合わせに飛び上がりばかりに歓喜しました。それは、私がこれまでに受け取った最高のクリスマスカードだったと言っていていいでしょう。こうしてぎりぎりまで待った甲斐あって、4月14日、ウサギたちは米国へ、そして私は再び任地のモロッコに旅立つことができたのです。

2005年4月19日

タンジールにて

臨床教授の依頼を受けて

横浜市立大学医学部 臨床教授

久保田 亘 (医、1期生)

大学内の教員だけで医師を養成する時代ではなく、広く学外で活躍される先生方に「臨床教授」という称号を贈り、教育に携わっていただく時代になっていきます。全国で「臨床教授」として活躍されている会員が増えています。明日の医療を担う医師を、最前線で教育する「会員の声」を紹介していきたいと思えます。



湖都通信の原稿依頼を受けましたが、大学講座の主任教授になつた訳でもないのに大変恐縮し、厚かましく思います。

私は卒業後、横浜市立大学整形外科に入学し、その後開業医として地域医療に携わっております。(詳細は湖都通信第18号に掲載)日頃は外来診療の他に医師会活動、レセプトの審査員、リハビリテーション専門学校と大学医学部の講義(非常勤)を担当しています。

2004年12月末の外来診療中に、整形外科講座(現在、大学院医学研究科運動器病態学教室)の主任教授より電話があり、臨

床教授として学生の指導に当たって欲しいと依頼がありました。一瞬、言葉を失いましたが、日頃色々とお世話になっていることもあり、少しも力になればと思い承諾しました。翌日より、業績や履歴書等の提出書類を準備し教授会を経て2005年3月1日付で臨床教授就任となつた次第です。

大学の内規では、「医学部における臨床教育の充実を図るため、学生の臨床実習の指導に協力する学外の医療機関の優れた医療人に与えるもの」となっていました。果たして、自分自身がこれに該当したのだろうかと自問自答しましたが、医学生生の臨床実習の他に、10年にわたり当院で受け入れている大学院生の卒業教育としての外来診療指導によるものと解釈しています。また最近では開業する前に当院で勉強して自立していく医局員や、当院で作成した「整形外科外来診療マニュアル」を希望する者もいます。

開業医として、地域医療を担う者としてプライマリーケアの充実、発展のために、また優秀な医療人を育てるために少しでもお役に立てればと考えております。

「湖医会」の益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。

横田敏勝先生を偲ぶ



滋賀医科大学 救急・集中治療医学講座 教授

江口 豊(医、2期生)

『科学への誘い』横田先生の我々へのメッセージ

昭和53年の夏休みであったと思う。私は、基礎医学の授業が始まるも、机上の勉強に興味が持てず、バドミンントンの顧問であった横田先生の実験の手伝いをしたいと申し出ました。そして、現、大阪歯科大学生理学教室の教授となられた西川泰夫先生の実験の手伝いをする事となりました。朝より準備して、夕方になって何のデータも出ず、夜の9時ごろになってやっ

とシグナルが出た時のことでした。「横田先生、シグナルが出ました！」と言うと、横田先生は「そうか」と、それは嬉しそうに言われました。その後シグナルは一つも出ずに、結局実験は失敗に終わり、また次の日に繰り返す行うこととなりました。真実を知ることの厳しさ、その厳しさが上に真実がわかった時の喜びなど、それまでの受験勉強と全く違う科学への世界へと導いてくださいました。



偲ぶ会で思い出を語る



『本学で学んだ方々への期待を述べさせていただきます。開学後間もない頃、校旗と校章のデザインを専門家に依頼しました。その時、滋賀県に縁の深い伝教大師の教え、即ち、「一隅を照らす、これ即ち国宝なり」を表すものと決めました。人は暗闇の中にじっとしておられない。それで、明かりを求める。本学に学んで世に出る君たちが小さいながらも明かりを灯す人であって欲しい。他人の幸福を願い、「また明日があるよ」と言って、日々の戦いに疲れた人々を励まして下さい。君達ならきっとできる。人の世の暗さに明かりを灯すことが、君達と酒を酌み交わした日々は忘れません。あのとき熱っぽく夢を語ってくれた君達に私の姿を見ました。私がいなくなっても、嘆くことはない。いつも私の中に君達が、君達の中に私が生きているから。』

『人を愛しなさい』横田先生の我々へのメッセージ

横田先生、先生はカッコよくダンディで、滋賀医大を愛し弟子や生徒を愛しみ、私の憧れの先生でした。昨年の11月30日に、バドミンントンのOB会で、私の教授就任パーティーをしていただきました。憧れの先生の隣に座ることができ、初めて褒めていただき嬉しくて先生の腕にそっと手を添えさせて

いただきました。乾杯の音頭を先生がなされ、咳で途切れ途切れとなりながらも、私の就任の挨拶状に書いた滋賀医大創立の理念、奇しくもその宴会場に掲げられていた扁額の文言「一隅を照らす」を指し示しながら解説をしてくださりました。すでにこの時、下肢には浮腫が認められ、自らの体調がお悪い中「今後が大変だから、皆で助けるように」との主旨の激励の熱いお言葉をいただきました。思い返せば、今でも目頭が熱くなるのを覚えます。

横田先生を偲ぶ会

月命日である5月14

日、草津のボストンプラザホテルにおいて、「横田敏勝先生を偲ぶ会」が、本学生理学講座統合生理学部門とバドミンントン部主催で厳かに行われました。数々の留学や北海道大学時代の横田先生らしい生き方、それ故にご苦労をされたこと、猫を愛し育てて一人でコツコツと研究をされていたこと、若い先生の研究が終わるまで深夜であろうと必ず残って見届けておられたこと、先生はバドミンントンをしたこともなければルールもよくご存知でないのに、バドミンントン創設時に顧問を即断でご快諾されたこと、生徒とヨーロッパ旅行をされ芸術の広い見聞を教えていただいたこと、バドミンントンのコンパでは皆の話を楽しそうに会の最後まで聞かれていたこと、退官後もコンパを楽しみにされ必ず出席されていたこと、など、皆の横田先生への熱い思いが次から次へと述べられ、各人が横田先生への思いを改めてかみしめました。先生のご冥福を心よりお祈りするとともに、上記の最終講演のお言葉を心に刻み、先生を偲び、天を仰いで力強く歩んでいくことを誓います。先生、ありがとうございます。



横田先生を偲んで75名が参加

健康志向の歯科医院づくり をめざして



くまがい歯科クリニック 院長 熊谷仁見 (2004年、院卒)

なぜ歯科医師が湖都通信開業医シリーズに

1997年北海道医療大学歯学部を卒業後、滋賀医科大学歯科口腔外科講座へ卒後研修医として入局しました。2年の卒後研修を経て、滋賀医科大学大学院へ進学することとなりました。大学院在学中は、第1病理学講座服部教授の指導の下でラットの食道発癌モデルを作成し歯とはあまり関連のないテーマで学位取得し、大学院卒業後の2004年9月に京都府舞鶴市で歯科医院を開業しました。4年間辛抱強く面倒みていただいた第1病理学講座の先生方に、紙面をお借りしてお礼申し上げます。

いつから開業を意識したのか

歯科大学に入学した時点でいつかは開業するだろうというイメージがありました。が、大学院卒業が近づくにつれ医局にも帰りづらい雰囲気があり、大学院4年目の夏に、開業について真剣に考えるようになりました。また大学院時代の4年間のアルバイト暮らしで、外来患者ならひととおり対処できる自信がついたというのも開業を加速させた理由です。

32歳独身での開業にまわりからは大変心配されました。銀行が融資を渋るのなら開業熱を冷まさなくてはと考えていたのですが、返事は意外とあっさりしてほぼ満額の融資を受けることとなり、背中をポンと押された形で準備に入りました。開業するにあたって、非常勤でこれまで働いた個人医院のなかに、いったい何が足りないのか、自分が患者だったら歯科医院にたいして何が不満かをあげてみました。そこでできたのは以下の点でした。

1. まず通院が始まると、いったいいつ終了するのかわからない。
2. どこが悪くてどういう治療が必要かわからないし説明してくれない。
3. いくら費用がかかるかわからない。まるでぼったくりバーみたい。
4. 結局治療した歯からだめになってしまう。歯が残っていても歯周病に悩まされる。

これらの問題点を極力、解決すべく医院のシステムづくりを模索しました。

健康志向の医院づくりをめざす

悪くなった口腔内を手堅く治療することも重要ですが、歯科医師本来の仕事は、生涯自分の歯で食事できるように口腔の健康管理をすることです。「悪くなってから治療する」では、歯を食物にして儲けていると後ろ指さされても仕方ありません。どんな病気でも、予防に勝るものはありません。厚生労働省から6年に一度歯科疾患実態調査というものが出されますが、1970年から1999年の約25年間で日本人の口腔の健康状態に変化がありません。80歳になって歯が1本も無い人の割合は、なんと60%にも上ります。これは、歯科医師がほとんどいない発展途上国の話ではなく、歯科医師数9万人、歯科大学が29大学あるなかでの現状ですので、これでは患者利益という点からとても評価できる状態にありません。これをなんとか解決すべく、北欧で培われた予防システムを数年かけてわが医院にも導入する準備をしています。しかし、齲蝕と歯周病の予防システムは疾病給付の医療保険になじまない部

分が多く、スタッフ教育と採算性の二つの点での課題が残っています。

開業して半年後

この原稿を執筆している2005年2月現在ですが、健全な経営状態とはいえませんが、借入金の元金返済くらいはできるようになりました。勤務医時代も充分認識していたつもりですが、歯科医療の保険財政の悪化を目の当たりにしています。それでも治療方針など自分の思うようになることも多く、日々の診療は楽しくやっています。当初掲げた診療システムづくりも、少しずつですがクリアできてきています。

開業医は体力勝負です。休日は、極冬の日本海でサーフィンをしたり、近所のスイミングクラブで水泳をしたりして鍛錬しています。時々、都会が恋しくなって京都に繰り出したりして、心にも栄養を与えています。

財政悪化など医療を取り巻く環境は明るいものではありませんが、患者利益に背くことさえなければ今後も充分やっていけるものだと確信しています。

くまがい歯科クリニック



〒624-0852

京都府舞鶴市大内3番地

電話：0773-76-6232

Email: dentistry-kuma@s9.dion.ne.jp

医院携帯サイト：www.nkm.jp/i/kumagai/

URL: http://www.kumagai-dental.net 「9月開設」

卒後 5年

2005.2.19

看護学科第3期生

同期会



わたしの同期会

滋賀医大病院 太田友子

2005年2月19日、卒業後初めての同期会に参加しました。そのとき一般病棟からICUに異動して3ヶ月、毎日新しいことを覚えようとしている中で何か自信が持てなかったり、以前は感じていた仕事の楽しさを感じる余裕もないときでした。

同期会で、みんなに会って話ができるのが年明けからずっと楽しみで、それを励みにがんばっていたりもしました。参加すればきっと、自分の中の何かを変えてくれる刺激があると期待していました。

同期会の夜、欠々に会った仲間でも、会話をすればすぐに学生時代の自分に戻りました。学生時代の楽しい思い出話や実習を一緒にがんばったこと、仕事を始めてからの悩み・感じたこと・嬉しかったこと、すべてを同期と話すことができました。そうしたら、今まで9年間楽しかったこと、辛かったことや悲しかったことを乗り越えてきたこと、そんな時同期がいつも励ましてくれたことを思い出し、懐かしい気持ちと安心感を感じることができました。そして、同期もがんばっている、いつでも話を聞いてくれる同期がいる、これからはがんばっていこう!と思うことができました。いつでも励まし、共感し、一緒にがんばっていける同期と会えて本当によかったです。

5年後、今度はどんな悩みにぶちあたっているかわかりませんが、その時もきっと同期が私の心の支えになってくれると思います。そんな仲間がいることを励みにこれからもがんばっていこうと思いました。



5年ぶりの再会



兵庫県立子ども病院
文字智子

みんなに会えるというだけで、この日をとても楽しみにしていた。卒業後はさまざまな人と出会い、看護や対象の捉え方、他職種との協働についての考え方など、実際多様であることを知った。看護は集団で提供するものなので、スタッフそれぞれの背景や考え方が違うのは当然であり、多様だからこそ生まれる視点もあると思う。私も一構成員なのだが、働いてからも自分で納得でき、支えとなる看護観を学生時代から育てたことに感謝している。

これまでを振り返っていると、みんなに会う前から懐かしい気持ちでいっぱいになった。同期会では、みんな元気そうでそれぞれ成長しているのを強く感じた。スピーチや話すときの表情、嫌なことも迷ったことも含めて明るく話せる力。みんな同じように、時には悩みながら毎日がんばっていることが伺えた。同時に、ありのままの自分を出しながら、仕事についても相談し合える友人達がいるというのは、とても幸せなことだと感じた。

子どもが成長するように、私たちも「看護の同期」という安心できる基地を心に持ちながら、いろんなことに目を向け、のびのびと看護に取り組んでいきたい。またその経験を生かし、私たち自身も生き生きと暮らしていけたらと思う。

楽しい会にしてくださった「湖医会」事務局のみなさんと幹事の方々に感謝しつつ、数年後の再会を心から楽しみにしている。

養護教諭部会

2005.1.29

看護
学科

本音が聴ける・・・

先輩の本音トークが、卒業生と在学生の結びつきを深めています。



「養護教諭進学希望者のための懇談会」を開催して

滋賀県立三雲養護学校 養護教諭

乾 実希子（8期生）



去る2005年1月29日、「養護教諭進学希望者のための懇談会」が開催されました。2004年1月10日の開催から2回目となった今回は、養護教諭として働いておられる卒業生3名、養護教諭養成機関に在籍中の卒業生1名の方に来ていただき、在學生13名と昨年、養護教諭部会の立ち上げを提案された泊先生をはじめ、看護学科の先生方数名を含め、20名余りの参加者のもとで行うこととなりました。ここ数年、養護教諭として活躍されている卒業生、養護教諭を希望する在學生や卒業生が徐々に増えてきたということもあり、養護教諭についてあまり情報がない中で少しでも多くの情報を得、卒業生と在學生の交流も兼ねて、情報交換、交流の場にといいことで、今回もこの会の開催に至りました。

当日は2部に分かれ、第1部では、卒業生一人ひとりから養護教諭の仕事や学校での様子、採用試験のことなどのお話をさせていただきました。どの方も、自分の経験によるお話をされ、在學生も皆真剣な眼差しで聞いていました。途中、畑下先生によるお話を頂いた後、第2部は交流会として、卒業生と在學生を交えたグループに分かれ、質疑応答など自由に交流をもってもらいました。

第2部は、とても和やかな雰囲気の中、在學生は採用試験や仕事のことなどを卒業生からより詳しく教えていただき、養護教諭を目指している在學生にとっては、経験談や実際の学校の様子など、卒業生から生の声を聞くことができ、とても貴重で有意義な場になったのではないかと思います。この会は、養護教諭を希望する人たちはもちろんのこと、卒業して養護教諭として働いておられる方同士も情報交換、交流することができる場だと思えます。養護教諭という一つの職業を通して、卒業生、在學生がこのようにつながり、交流することができるのは素晴らしいことだと思います。養護教諭を目指す人、養護教諭に興味がある人、そし

て、養護教諭として働く人。この会を通して、養護教諭の輪がどんどん広がっていくことをこれから期待していきたいと思います。

第2回養護教諭進学希望者のための懇談会に参加して

滋賀県立三雲養護学校 養護教諭

橋詰小夜（6期生）



昨年に引き続き、今年も「養護教諭進学希望者のための懇談会」に参加させていただきました。

さて、今回の懇談会では卒業生の仕事や採用試験についての経験談や参加者同士の懇談・交流だけでなく、泊先生からこれまでの滋賀医科大学の養護教諭進学希望者の動向や養護教諭に求められる資質などについてのお話があり、また畑下先生からは最近のトピックスとして「デートDV」についてのお話をいただき、大変盛りだくさんの内容で充実した時間を過ごすことができました。

この懇談会は私が卒業した翌年に開催されるようになった会です。泊先生に滋賀医科大学を卒業され養護教諭として活躍されている先輩方の連絡先等を教えていただいたこともあったのですが、お顔もお名前もよく知らない方にいきなり悩みや不安をお伝えすることもできずにいました。クラスメイトの大半が看護師や保健師、新たな進学先を目指し奮闘している中、少し心細い思いをしたこともあります。しかし、このような会が開催されるようになり、卒業生から仕事や採用試験などについてのいろいろな話を聞けるようになったことで後輩の方たちの悩みや不安を少しは解消できるようになったのではないかと思います。そして、卒業生にとっても真剣な思いで質問や悩みをぶつけてきてくれる後輩との懇談・交流は楽しくよい刺激を受けられる機会となっています。

今後も「養護教諭進学希望者のための懇談会」が参加者全員で学び合い、高め合える場であってほしいと思っています。



来見良誠 (医1期生) 滋賀医科大学 外科学 助教授



1981年3月 滋賀医科大学医学部医学科卒業
 1982年5月 滋賀医科大学医学部附属病院第一外科 研修医
 1983年7月 岐阜歯科大学(現・朝日大学) 附属村上記念病院外科
 1985年4月 滋賀医科大学医学部第一外科 医員
 1987年12月 滋賀医科大学医学部第一外科 助手
 2000年8月 滋賀医科大学医学部第一外科 講師
 2002年4月 滋賀医科大学医学部外科学講座 講師
 立命館大学大学院理工学研究科 客員教授(～現在)
 2004年4月 滋賀医科大学医学部附属病院
 卒後臨床研修センター 副センター長(～現在)
 2005年6月 滋賀医科大学医学部外科学講座 助教授

2005年6月1日、外科学講座の助教授を拝命いたしました。専門領域は、消化器外科(主に肝胆膵外科)・内視鏡外科・一般外科で、現在、乳腺一般外科の診療科長として診療に従事しています。診療面では、高度な専門性と人間性を重視した医療を提供することによって、要求に答えたいと思っています。研究面では、急速に進む科学技術を医療分野に応用し、ナビゲーション外科学という新しい学問の分野を構築したいと考えています。教育面では、新しく導入された卒後臨床研修システムに困惑している後輩諸君の良き先輩として、より良い医師の育成に努めたいと思っています。これからもよろしくお願いたします。

住所・勤務先肩書き等に変更がありましたら事務局にご一報ください

いよいよ

カードから、同窓会年会費(¥6000)の引落しができる!

同窓会費をいちいち振り込むのが面倒で・・・という方に朗報です
三井住友 VISA カード
三井住友 MasterCard が、ご利用できます。
 既にカードからの引落を希望されている方には必要書類を郵送いたしますのでご記入のうえ、郵便でご返送ください。

希望者・お問い合わせは「湖医会」事務局へ
 e-mail: koikai@koikai.org
 TEL: 077-548-2074
 FAX: 077-548-2094

今までどおり、郵便振込・「湖医会」カード(VISA)からの引落しも可能です

井戸庄三先生(本会特別
 会員、滋賀医大名誉教授)
 が、6月27日ご逝去されま
 した。
 謹んでお悔やみ申し上げ
 ます。

訃報



同期会のお知らせ

卒後20年は医学科5期生
 開催時期は現在検討中
 卒後10年は医学科15期生
 2006年1～2月頃開催予定
 卒後5年看護学科4期生は開催せず

第7回 関東支部会のご案内

- 日時 8月6日(土) 午後6:30開場 7:00開会
 - 場所 品川プリンスホテル『品川大飯店』代表03-3440-1111
 前滋賀医大福祉保健医学講座講師
 現大阪教育大学健康科学講座教授
 山川正信先生の講演、終了後懇親会
 - 研修医・看護学科卒業生・学生は無料
- 詳しくは事務局へ

湖医会奨学金、ご寄付者一覧

ありがとうございました。
 心よりお礼申し上げます。
 <正会員>
 江口 豊(医2)



(2005.2.26～2005.6.30 順不同、敬称略)

「湖医会」会員メーリングリスト 入会者募集!

- <注意事項>・管理者は湖医会事務局です。
 ・参加者は湖医会正会員に限ります。
 ・本人確認の連絡をすることもありますので、ご協力ください。
 ・脱会は自由です。
 ・誹謗、中傷があった時は管理者が削除します。
 ・返信を押すと発信者のみに送信されます。

<入会申込> mail: koikai02@yahoo.co.jp / fax: 077-548-2094

平成17年度版会員名簿発行!

名簿発行は「湖医会」の主たる事業のひとつでもあり、会員相互の親睦を高めるためにも「会員名簿」は必要であると考えます。しかし個人情報保護の立場から「掲載項目」には、配慮いたしました。
 会員の皆様には同封の「湖医会名簿資料」にご協力くださいますようお願いいたします。(名簿作成委員会)

<医師募集の広告について>

会員の記事として載せる場合は原稿扱とし、無料で本文中に掲載します。広告として掲載する場合は
 大きさ縦: 6cm × 横: 18cm、掲載: 3回/年(広告申込み多数の場合は2回) 掲載料: 5万円/年、
 掲載項目: 病院名・募集内容・連絡先(電話・FAX・担当者)・その他、簡単なコメントや関わりのある卒業生氏名・期生など



詳しくは事務局へ

ご協賛
ありがとうございます

扶桑薬品工業株式会社 / ヤマサ醤油株式会社 / ゼリア新薬工業株式会社
 株式会社日本医学臨床検査研究所 (順不同)